

mitsubishi

三菱 自然冷媒 ヒートポンプ式電気給湯機 **ダイヤホット**

時間帯別電灯通電制御型

●この製品は、「時間帯別電灯」契約専用です。

SRT-HP521

仕様書

仕様表

形名	セ ッ ト	SRT-HP521
	ヒートポンプユニット	SRT-HP521HPU
	貯湯タンクユニット	SRT-HP521TU
適用電力制度	季節別時間帯別電灯、時間帯別電灯 通電制御型	
種類（設置場所）	屋外型	
タンク容量	370L	
定格電圧・周波数	単相 200V・50/60Hz	
ヒートポンプユニット	定格加熱能力 ^{※2 ※3}	4.5kW
	定格消費電力 ^{※3}	1.3kW
	夏期加熱能力/消費電力 ^{※2 ※4}	4.5kW/1.2kW
	冬期加熱能力/消費電力 ^{※2 ※5}	4.5kW/1.4kW
	冬期高温加熱能力/消費電力 ^{※1 ※2 ※6}	4.5kW/1.8kW
凍結防止ヒーター	0.1kW（冬期のみ作動）	
最大電流	20A	
沸き上げ温度	約70℃～90℃	
寸法	ヒートポンプユニット	高さ 670mm × 幅 810mm × 奥行き 320mm
	貯湯タンクユニット	高さ 1900mm × 幅 630mm × 奥行き 730mm
質量	ヒートポンプユニット	62kg
	貯湯タンクユニット	約75kg（満水時約445kg）
運転音 ^{※7}	45dB	
最大使用圧力	170kPa	
冷媒名（封入量）	CO ₂ （0.63kg）	
安全装置	漏電遮断器、温度過昇防止器、缶体保護弁	

※1 低外気温時は除霜のため、加熱能力が低下することがあります。

※2 沸き上げ終了直前では加熱能力が低下する場合があります。

※3 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)16℃/12℃、水温17℃、沸き上げ温度65℃

※4 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)25℃/21℃、水温24℃、沸き上げ温度65℃

※5 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)7℃/4℃、水温9℃、沸き上げ温度65℃

※6 作動条件:外気温(乾球温度/湿球温度)7℃/6℃、水温9℃、沸き上げ温度90℃

※7 定格条件下での測定(JISのルームエアコンディショナに準じ測定)

※3、4、5、6、7について

- 外気温:理科年表、月別平年気温・湿度(1961年から1990年までの平均値)
- 水温:(社)ソーラーシステム振興協会「ソーラーシステムの設計基準に関する調査研究」(昭和57年9月)
- いずれも東京・大阪の季節別環境条件です。

仕様表

T010501A



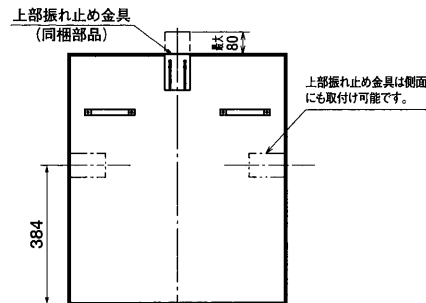
別売部品

部 品 名	形 名
台 所 リ モ コ ン	RMC-521K(外形寸法：縦 140mm × 横 125mm × 厚さ 20mm)
浴 室 リ モ コ ン	RMC-521B(外形寸法：縦 100mm × 横 200mm × 厚さ 31mm)
リ モ コ ン ケ ー ブ ル	LM-620 (20m)、LM-650 (50m)、無極性、2芯
浴 槽 ア ダ プ タ ー	GT-D76 (直管おねじタイプ)、GT-D78 (直角おねじタイプ)
絶 縁 パ イ プ	GT-61B (給湯・給水用 0.5m)、GT-62B (ふろ用 0.5m)
ヒートポンプA配管用止水栓	GT-100
ヒートポンプA配管用ストレーナー	GT-110
脚 部 カ バ ー	GT-E521A (正面設置用)
	GT-E521B (横置き設置用)
ア ー ス 棒	GT-30B

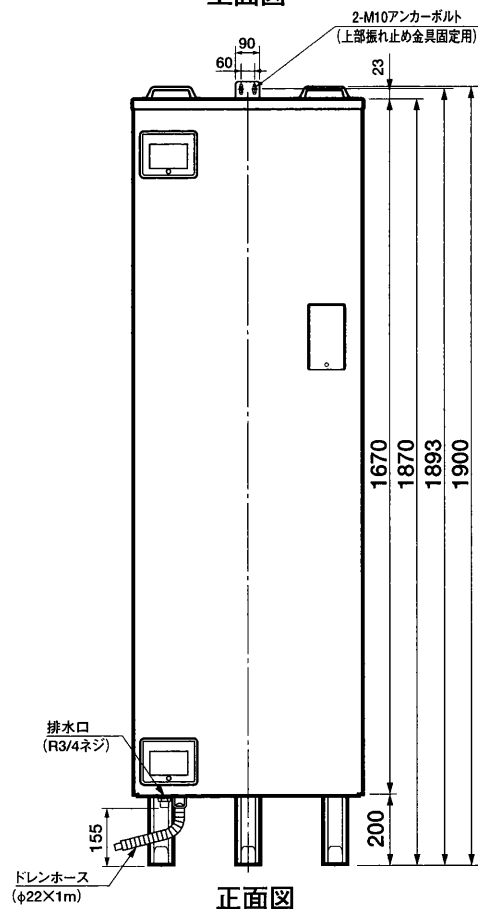
仕様表	
T010502A	/

外形寸法図 (寸法単位:mm)

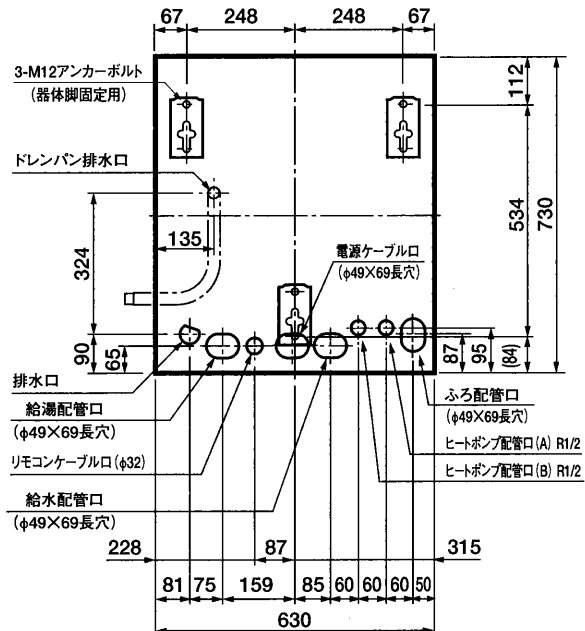
貯湯タンクユニット



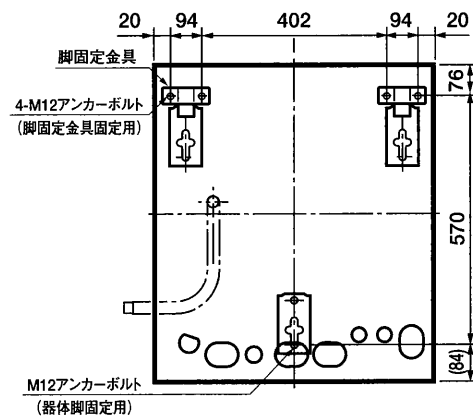
上面図



正面図

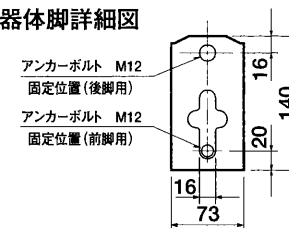


配管、アンカーボルト位置:上面透視図

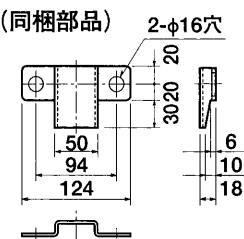


脚固定金具使用時:上面透視図

器体脚詳細図



脚固定金具 (同梱部品)



形名	SRT-HP521TU
タンク容量 (L)	370
質量 (kg)	本体
	満水時
	75
	445

⚠ 注意

- 温水器の重量に十分耐える基礎工事をしてください。(満水時 約445kg)
- 器体脚、上部振れ止め金具はアンカーボルト等で必ず固定してください。(後側の器体脚の固定ができない場合は付属の脚固定金具をご使用ください。)

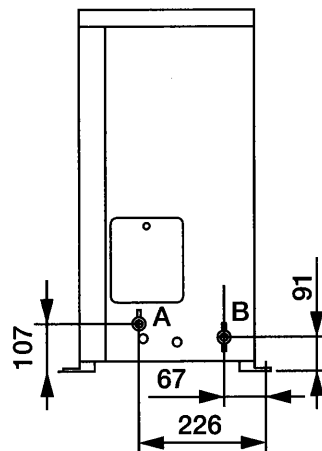
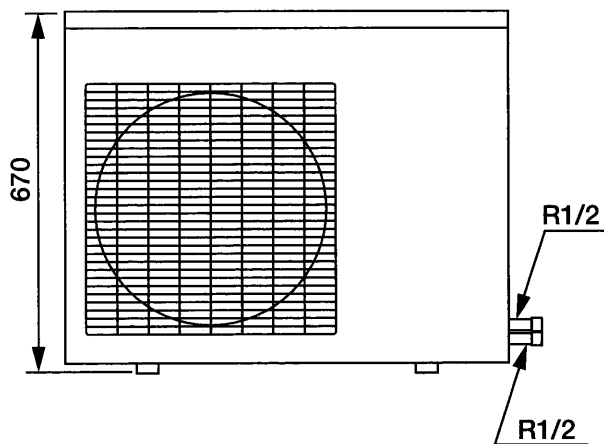
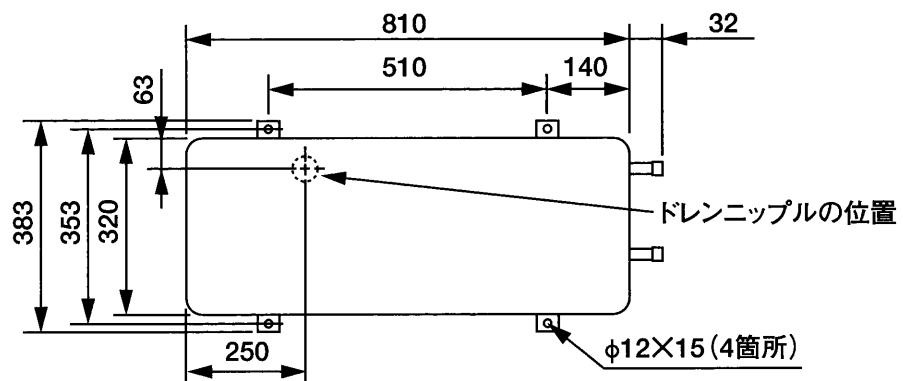
SRT-HP521

時間帯別電灯対応通電制御型
外形寸法図

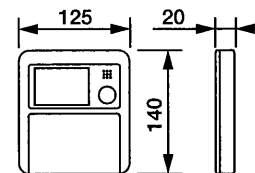
T010503A

外形寸法図 (寸法単位:mm)

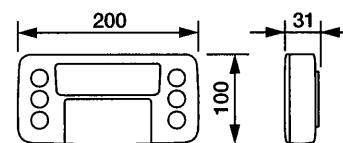
ヒートポンプユニット



台所リモコン (RMC-521K)



浴室リモコン (RMC-521B)



SRT-HP521

時間帯別電灯対応通電制御型
外形寸法図

T010504A

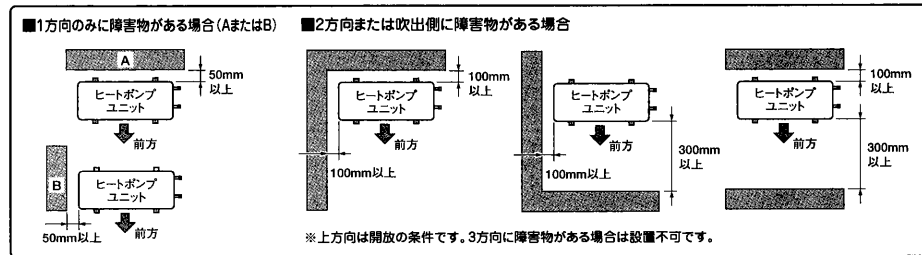
据付工事

据付場所の選定

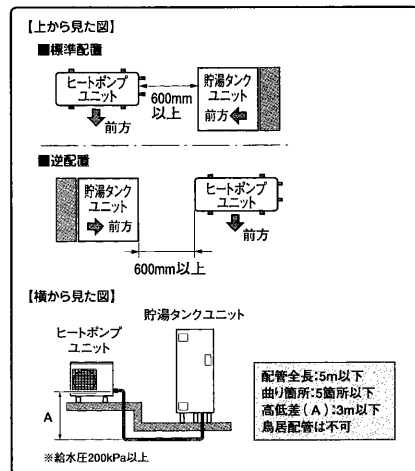
- 機器と建物とのすき間寸法については、各都市の火災予防条例に従ってください。
- ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニットは機器の性能や保守点検のため「据付場所の制約」のスペースを確保してください。
- ヒートポンプユニットは通気性の良い場所に据え付けてください。
- 配管に関する「据付場所の制約」を守ってください。
- 配管による放熱ロスを少なくするため、できるだけ給湯場所に近い所へ据え付けてください。
- 貯湯タンクユニットは屋外据付です。室内（機械室）に据え付けてください。また、床面の防水・排水工事を確実に行ってください。
- 浴室など湿気の多い所には据え付けてください。
- 雨や雪が降ったとき、水たまりができて水につかるような所には絶対据え付けてください。
- 積雪地区へ据え付ける場合は、貯湯タンクユニットは小屋がけをして雪がかかるのを防いでください。
- 積雪地区へ据え付ける場合は、ヒートポンプユニットは置台の上に据え付けるなど、雪が空気吸込口・吹出口から入らないようにしてください。また、屋根をつけて雪が積もらないようにしてください。
- ヒートポンプユニットは沸上げ中および凍結防止運転中に若干の運転音、振動が発生します。また沸上げ中は冷風がでますので、寝室の近くやご近所の迷惑になる場所への据え付けは避けてください。
- ヒートポンプユニットは強風に当たらない場所を選定してください。（風が当たると除霜時間が長くなります。）
- 貯湯タンクユニット設置階の上の階に給湯するとき、貯湯タンクユニット設置階の給湯回路に流量絞り弁を取り付けてください。
- ヒートポンプユニットはテレビ・ラジオのアンテナより3m以上離してください。（テレビ・ラジオに映像のみだれや雑音が生ずることがあります。）

据付場所の制約

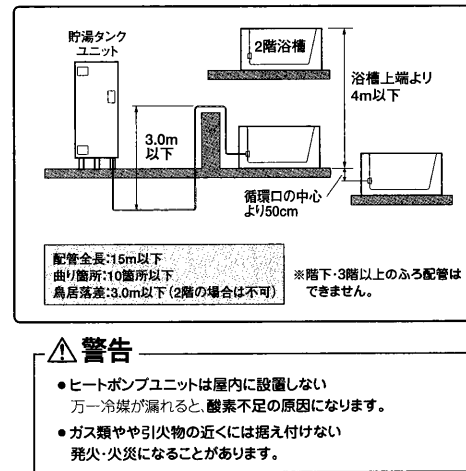
ヒートポンプユニット単体の据付制約（上から見た図）



ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニット間の据付制約

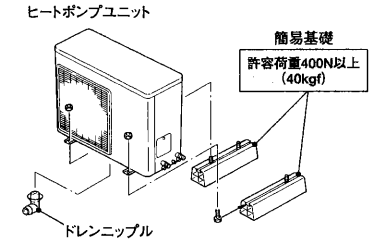


貯湯タンクユニットと浴槽間の据付制約（横から見た図）



ヒートポンプユニットの据付

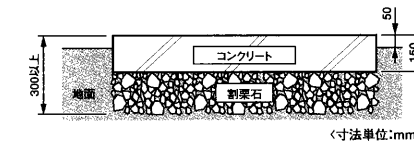
- ドレンニップルをヒートポンプユニットの下穴に取り付けてください。
 - 市販の蛇腹ホース(φ16)をニップルに取り付け、ドレンを排水できる位置へ導いてください。
- 簡易基礎(市販品)を使用して屋外、床置きにて、水平に据え付けてください。
- 積雪地域では、置台の上に設置するなどの雪入り対策をしてください。
- ユニットの脚は必ず簡易基礎に固定してください。



貯湯タンクユニットの据付

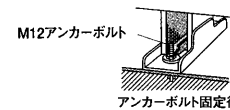
基礎工事

- 貯湯タンクユニット満水時の質量(約458kg)に十分耐える基礎工事をしてください。
- 床面は防水・排水工事を行ってください。
- 基礎工事は右図に従って行ってください。
コンクリート圧縮強度:18MPa(180kgf/cm²)以上



脚部固定工事

- 地震時の転倒防止のため、アンカーボルトを使用して基礎の上に固定します。3箇所必ず固定してください。
- 必ず水平に据え付けてください。

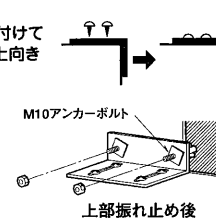


注意

- 貯湯タンクユニットの脚部をアンカーボルトで固定する(けがの原因)

上部振れ止め工事

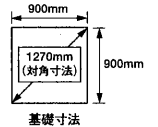
- ①貯湯タンクユニットの上面に取付けてある上部振れ止め金具を外し上向きに取り付けます。
- ②上部振れ止め金具を壁に固定します。



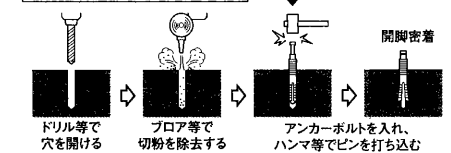
【お願い】

- 原則として、屋外に据え付けてください。
- 基礎は◇形(菱形)にならないように対角寸法を確認してください。
- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。

呼び系	ドリル系(mm)	穴深さ(mm)
M12	12.7	50

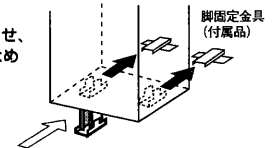


おネジ式アンカーボルトの施工例



後脚がアンカーボルトで固定できない場合

- ①付属の脚固定金具をM12アンカーボルトで固定します。
- ②本体を矢印の方向に移動させ、後脚を脚固定金具の爪にはめ込みます。
- ③前脚をアンカーボルトで固定します。



【お願い】

- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。

呼び系	ドリル系(mm)	穴深さ(mm)
M10	10.5	35

SRT-HP521

据付工事

T010505A

配管工事-1

- 上水道を使用する場合は当該水道事業者の条例に基づき認定水道工業者が施工してください。
- 水は水道法の飲料水水质基準に適合した水道水を使用してください。
井戸水はご使用しないでください。
- 給水圧力は200kPa以上で使用してください。
- 水栓は逆止弁付湯水混合栓を使用してください。使用する蛇口によっては、出湯量が少ない場合があります。特にシャワーはやけど防止のため、サーモスタット付湯水混合栓を使用してください。(サーモスタット付湯水混合栓を使用する場合、構造により出湯量が極端に少ない場合があります。ご使用になるときは、最低必要圧力、シャワーヘッドなどの仕様を確認して選定してください。手元ストップシャワー、マッサージシャワー等のシャワーヘッドでは出湯量が少なくなります。)
- 排水口の下には必ず排水ホッパーを設けてください。

注意

- 水道水を使用する
(故障や水漏れの原因)

【お願い】

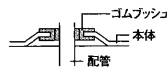
- 配管材料をろう付けした場合は、ろう付け箇所付近に飛散したフラックスを濡れた布できれいに拭き取ってください。
- 温水配管は、管の膨張収縮がありますので、コンクリート壁やスラブを貫通するときはスリーブを使用し、埋設配管するときは管を固定しないでください。
- 配管接合部のシール材は耐熱・耐食性のある材料を使用してください。
- 配管材料はネジ切り・切断などの際、油やゴミが付着しますから、加工後は必ず中性洗剤で洗浄してから配管してください。
また、キズやバリがないように面取りを行ってください。(通水後は各水栓、減圧弁などのストレーナにゴミがたまってないか点検してください。)
- 耐熱塩ビ管(HT管など)を接着接続した場合は、接着剤が減圧弁ストレーナなどへ付着しないよう、硬化後に通水してください。

ヒートポンプ配管・貯湯タンク配管・ふろ配管工事

場所	使用配管材	配管サイズ	絶縁パイプ	施工上の注意
ヒートポンプ配管	100℃以上の耐熱性、耐食性を有するもの(銅管など)	φ12.7	—	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒートポンプユニットと貯湯タンクユニットのA-A、B-Bを接続してください。 ● A側配管には止水栓(別売部品)を取り付けてください。 ● A側配管にはストレーナー(別売部品)を取り付けてください。 ● 配管長さは片道5m、5曲りまでです。 ● 配管の高低差はトータル3m以下としてください。鳥居配管はできません。 ● ペアチューブは使用不可です。A側・B側それぞれ独立した配管とし、放熱を防ぐ保温材を巻いてください。
給水配管	耐食性を有するもの(銅管など)	20A (3/4B)	GT-61B (20A、0.5m)	<ul style="list-style-type: none"> ● 故障や点検など排水するときに必要な、給水配管専用止水栓を取付けてください。給水配管専用止水栓はお客様が操作しやすい場所に取り付けてください。 ● 貯湯タンクユニットの給水接続口に絶縁パイプを取り付けてください。
給湯配管	耐熱・耐食性を有するもの(銅管など)	20A (3/4B)	GT-61B (20A、0.5m)	<ul style="list-style-type: none"> ● 貯湯タンクユニットの給湯接続口に絶縁パイプを取り付けてください。 ● 階下給湯はできません。
ふろ配管	耐熱・耐食性を有するもの(銅管、耐熱樹脂管など)	15A (1/2B)	GT-62B (15A、0.5m)	<ul style="list-style-type: none"> ● 途中で絶縁パイプを取り付けてください。 ● 配管長さは15m、10曲りまでです。(耐熱樹脂管(13A、φ12.7)を使用する場合は6m、5曲りまで) ● 階下へのふろ配管はできません。 ● 設置面から浴槽上面までは、4m以下にしてください。 ● 鳥居配管は1箇所3.0m以下としてください。 ● 浴槽アダプターは指定のものを使用してください。 ● フレキ管の使用長さは1m以下としてください。
排水配管	90℃以上の耐熱性・耐食性を有するもの(HT管など)	φ50以上	—	<ul style="list-style-type: none"> ● 口径φ80以上の排水ホッパーや排水トラップおよびφ50以上の排水管を使用してください。 ● 沸き上げ中に貯湯タンクユニットの排水口やヒートポンプユニットのドレンホースより少量のお湯が出ますので、必ず排水工事を行ってください。 ● 最大40L/分程度排水されますので、十分排水できる排水工事をしてください。

【お願い】

- 貯湯タンクユニット設置階の上の階へ給湯するときは、貯湯タンクユニット設置階の給湯配管に流量絞り弁を取り付け、階高さによる流量バランスを調整してください。
- フレキ管の使用長さはできるだけ短くしてください。
- ヒートポンプ配管にフレキ管を使用する場合、パッキンは耐熱性ノンスベストタイプを使用してください。
- 貯湯タンクユニット底面の各配管口のゴムプッシュ(右図)は、本体と配管の絶縁をしますので外さないでください。また、本体と配管のすきまは、同梱のパテでシールしてください。(万一、タンク等から漏水した場合、大きな被害につながるおそれがあります。シール方法については付属の工事説明書をお読みください。)



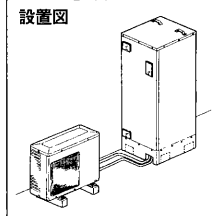
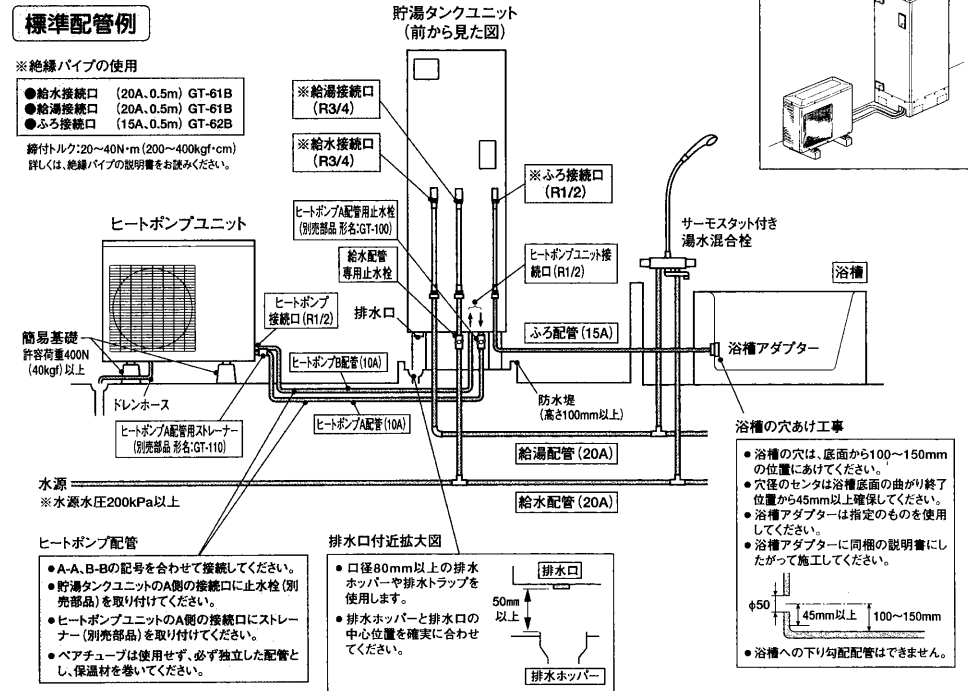
配管例

標準配管例

※ 絶縁パイプの使用

- 給水接続口 (20A、0.5m) GT-61B
- 給湯接続口 (20A、0.5m) GT-61B
- ふろ接続口 (15A、0.5m) GT-62B

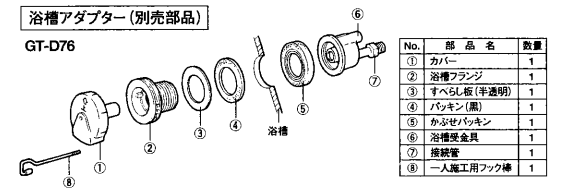
締付トルク:20~40N・m (200~400kgf・cm)
詳しくは、絶縁パイプの説明書をお読みください。



- ### 浴槽の穴あけ工事
- 浴槽の穴は、底面から100~150mmの位置にあけてください。
 - 穴径のセンターは浴槽底面の曲がり終了位置から45mm以上確保してください。
 - 浴槽アダプターは指定のものを使用してください。
 - 浴槽アダプターに同梱の説明書にしたがって施工してください。
-
- 浴槽への下り勾配配管はできません。

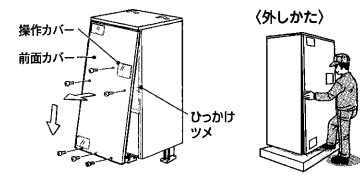
浴槽アダプター取付け工事

- 浴槽アダプターは、設置条件に合わせて専用別売部品(GT-D76またはGT-D78)を使用してください。
- 取付け方法については、浴槽アダプターの工事説明書をお読みください。
- 浴槽内厚20mmまで取付け可能です。
- カバーの「上」印が上方になるように取付けてください。
- 取付けには別売の専用締付工具(当社製 GT-75K)を使用してしっかり(15N・m程度)締め付けてください。



貯湯タンクユニットの前面カバーの外しかた

- 前面カバーのねじ(6本)を外したあと、前面カバーを上げながら手前に引いて降ろします。



SRT-HP521

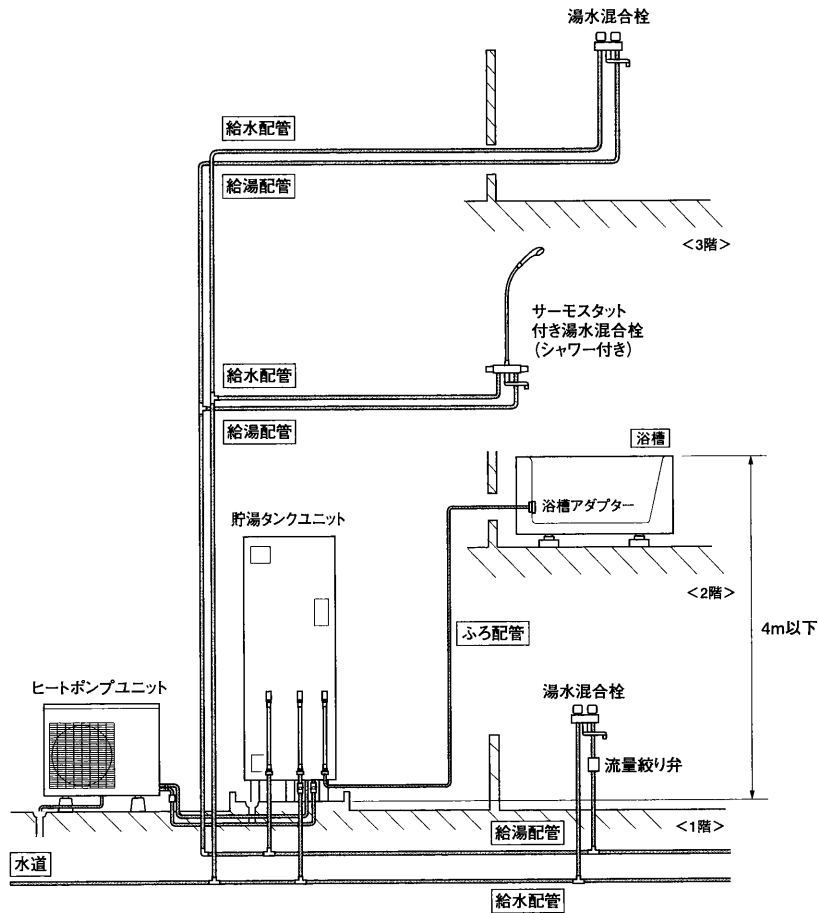
配管工事-1

T010506A

配管工事-2

特殊配管例

- 2、3階へ給湯配管する場合は、下記のように行ってください
- 3階ではシャワーは使用できません。
(手洗い程度であれば使用できます。洗髪洗面化粧台は使用できません。)



階下給湯

- 階下への給湯はできません。

警告

- 階下給湯はしない
(やけど・水漏れの原因)

保温工事

- 配管工事終了後、配管接続部での水漏れの有無を点検してから、保温工事をしてください。

保温材:厚み10mm以上で各水道事業者指定の厚み

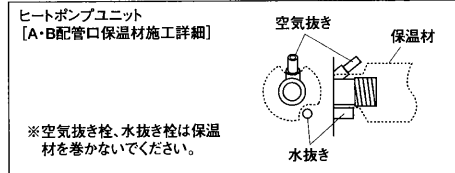
- 給水、給湯、ヒートポンプ配管およびふろ配管は、必ず保温工事を行ってください。

耐熱保温材 使用配管	ヒートポンプ配管 給湯配管 ふろ配管
---------------	--------------------------

【お願い】

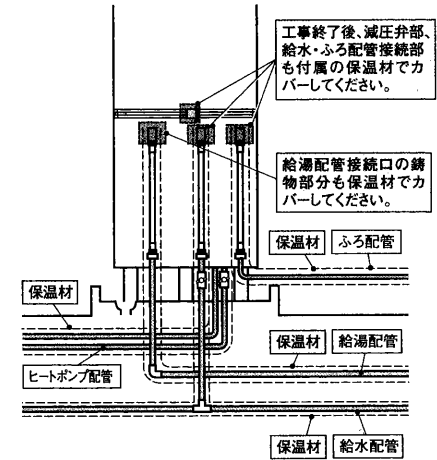
- ヒートポンプ配管およびふろ配管にも確実に保温工事を行ってください。保温工事が正しく行われていないと、配管の途中で放熱し、正常に沸き上げや湯はりができません。また、冬期では凍結のおそれがあります。

- 保温工事をした部分は、保温材がぬれないようテープなどで必ず防水処置をしてください。



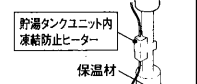
※空気抜き栓、水抜き栓は保温材を巻かないでください。

貯湯タンクユニット



警告

- 貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒーターは保温材で覆わない
(発火・火災の原因)



凍結防止工事

- 保温工事があっても周囲温度が0℃以下になると配管は凍結します。機器や配管が破損する場合がありますので、適切な凍結防止対策を行ってください。

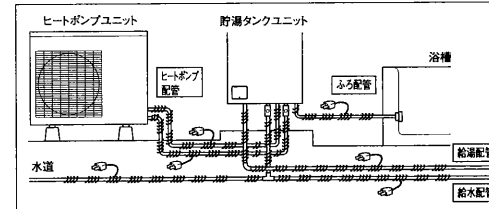
推奨品:東京特殊電線 NFオートヒーター

※一般市販のサーモスタットタイプは温度誤検知のおそれがありますので使用しないでください。

凍結防止ヒーター(市販品)を外部配管に施工する方法

- 凍結防止ヒーターは凍結のおそれがある配管すべてに施工します。ヒートポンプユニットの継手部分およびストレーナは凍結しやすいので、必ずヒーターを施工してください。(貯湯タンクユニット内部の配管は保温材による凍結防止を行ってください。)

- 凍結防止ヒーター用のコンセントを適当な位置に設けます。



【お願い】

- 凍結防止ヒーターの施工はヒーター同梱の説明書にしたがってください。
- 凍結防止ヒーターの取扱方法、操作方法をお客さまに十分説明してください。

注意

- 凍結防止対策を行う
(やけどや水漏れの原因)

SRT-HP521

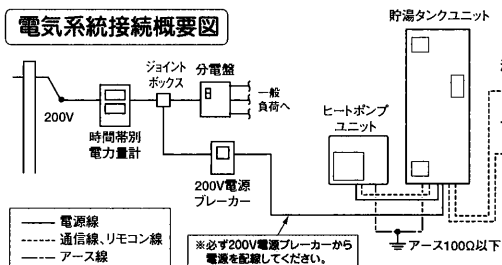
配管工事-2

T010507A

電気工事

- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、指定工事業者が行ってください。
- ブレーカーの定格および電線の太さは内線規程に定められたものを使用してください。
- 電力契約は必ず「時間帯別電灯」としてください。
- 必ずタンクを満水にしたことと各止水栓が開いていることを確認してから電源を入れてください。
- 保護アース(接地)工事は万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士によるD種(第3種)接地工事(接地抵抗値100Ω以下)を行ってください。

電気系統接続概要図



必要部材

名称	仕様	備考
電源ブレーカー	単相200V、30A	
電源線	5.5mm ² (φ2.6) VV線	2芯式、電源~貯湯タンクユニット、貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット
通信線、リモコン線	0.3mm ² 以上	2芯式、貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニットおよびリモコン全回路
PF管	φ28	電源線用(電源~貯湯タンクユニット、貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット)
PF管	φ16	通信線用(貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット、貯湯タンクユニット~リモコン)
アース線	φ1.6 IV線	

貯湯タンクユニットへの配線工事

- 電源線(電源~貯湯タンクユニット、貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット)をそれぞれPF管(φ28)に通します。
- 各リモコンから貯湯タンクユニットまでのリモコン線(2本)とヒートポンプユニットから貯湯タンクユニットまでの通信線を、PF管(φ16)に通します。
- 電源線(電源~貯湯タンクユニット)を電源ケーブル口から通し、200Vターミナルに接続します。
電源線 締付トルク:3.2±0.4N・m (32±4kgf・cm)
- 電源線(貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット)を電源ケーブル口から通し、ヒートポンプ用ターミナルに接続します。
電源線 締付トルク:3.2±0.4N・m (32±4kgf・cm)

【お願い】

- ターミナルへの接続は付属の圧着端子を使用してください。
- 電源線にVVVF(平形)を使用する場合は、VVVF線用のクランプを現地調達して、交換してください。

- 電源線2本をケーブル押え板で固定します。
- 通信線(貯湯タンクユニット~ヒートポンプユニット)をリモコンケーブル口から通し、ヒートポンプ用通信ターミナルに接続します。
通信線 締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)

【お願い】

- ターミナルへの接続は付属の圧着端子を使用してください。

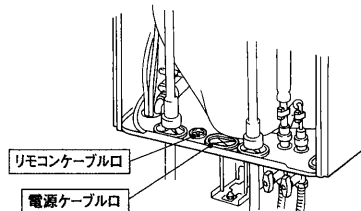
- 通信線をケーブル押えで固定します。
- リモコン線2本(台所、浴室リモコン用)をリモコンケーブル口から通し、リモコン接続端子に接続します。
リモコン線 締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)

〈参考〉接続端子用手動式圧着工具

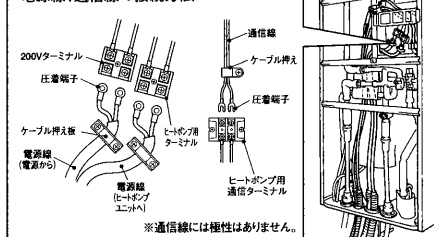
- 日本圧着端子製造株式会社製 YNT-2216

警告

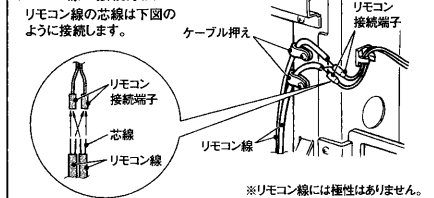
- 貯湯タンクユニット内の凍結防止ヒータと配線は100mm以上の距離を確保する (火災の原因)



電源線、通信線の接続方法



リモコン線の接続方法



ヒートポンプユニットへの配線工事

- 貯湯タンクユニットからヒートポンプユニットまでの電源線をPF管(φ28)に通します。
- 貯湯タンクユニットからヒートポンプユニットまでの通信線をPF管(φ16)に通します。
- 配線を通したPF管を、ヒートポンプユニット下部の配線取り入れ口からユニット内へ通します。
- クランプ(既設)でPF管(電源線)を固定します。
- 電源線をヒートポンプユニットの200V端子台へ接続します。

電源線 締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)

【お願い】

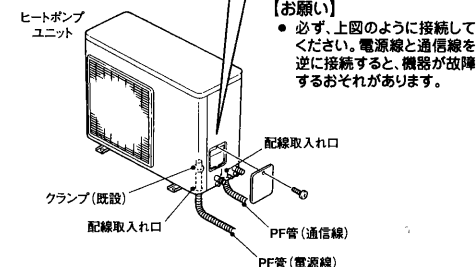
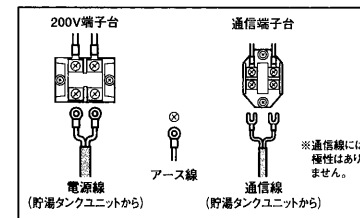
- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。

- 通信線をヒートポンプユニットのリモコン端子台へ接続します。

通信線 締付トルク:0.6±0.1N・m (6±1kgf・cm)

【お願い】

- Y型端子(市販品)を圧着して接続してください。



アース工事

- 万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、D種接地工事(接地抵抗100Ω以下)を行ってください。
- 水道管、ガス管への接地、および他の機器の接地との共用はできません。
- 避雷針の接地と2m以上離してください。

警告

- 必ずアース工事をする(感電の原因)

貯湯タンクユニット

- 貯湯タンクユニット下部の電源ケーブル口から、アース線(市販品)をユニット内へ通し、アース端子(⊕マーク)へ接続します。
締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)

【お願い】

- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。

ヒートポンプユニット

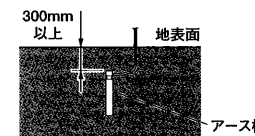
- ヒートポンプユニット下部の配線取り入れ口から、アース線をユニット内へ通し、アース端子へ接続します。
締付トルク:1±0.3N・m (10±3kgf・cm)

【お願い】

- 丸型端子(市販品)を圧着して接続してください。

アース棒の取り付け

- アース線2本をアース棒に接続します。
- アース棒を地中300mm以上の深さに打込みます。



SRT-HP521

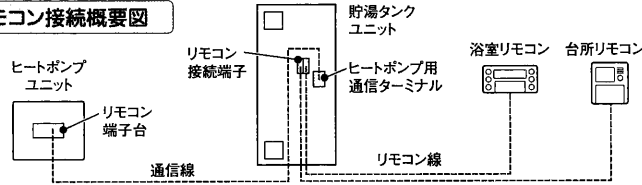
電気工事

T010508A

リモコン工事

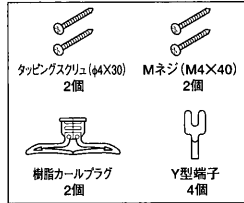
- リモコンは、三菱純正別売部品をご使用ください。別売リモコン以外では、沸き上げできません。
- 通信線、リモコン線は、三菱純正別売部品(形名:LM-620またはLM-650)を設置条件に合わせて切断してご使用ください。

リモコン接続概要図



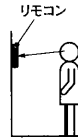
台所リモコン取付工事

付属品



取付場所の選定

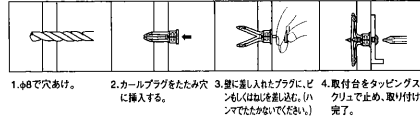
- 取付位置はスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところを選んでください。
- 台所リモコンは防水タイプではありません。下記の場所には取り付けてください。
 - ・ガステーブルなど高温(50℃以上)になる場所
 - ・浴室など湿気の多いところ
 - ・直射日光のあたるところ
 - ・湯気や水しぶきや油のかかるところ
 - ・幼児の手が届くところ
- リモコン線の長さが20m以内になる場所としてください。



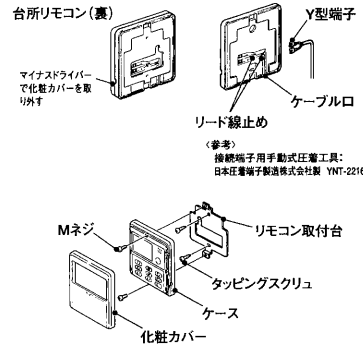
壁面に取り付ける場合(露出配線)

- (1) マイナストライバなどで化粧カバーを取り外します。
- (2) ケース上下のネジをゆるめ、リモコン取付台を取り外します。
- (3) リモコン取付台をタッピングスクリュー(付属品:φ4x30)で取り付けます。(壁が石膏ボードなど中空の場合は、樹脂カールプラグを使用します。)

<樹脂カールプラグの使い方> [使用可能壁厚:9~13mm]

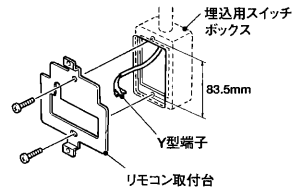


- (4) ケースのケーブル口をニッパなどで切り欠きます。
- (5) リモコン線を付属のY型端子に圧着接続し、リード線止めに止めます。
締付トルク:0.6±0.1N・m(6±1kgf・cm)
- (6) ケースをリモコン取付台に通し取り付けます。
- (7) 化粧カバーを元通り取り付けます。
- (8) リモコン線を壁に固定し、貯湯タンクユニットまで配線します。



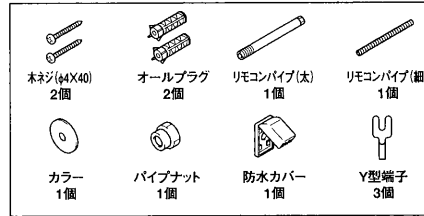
リモコン線を壁中に通す場合(埋込配線)

- (1) リモコン取付位置に埋込用スイッチボックス(1個用)を取り付けておきます。
- (2) リモコン線を電線管を通し、貯湯タンクユニットまで配線しておきます。
- (3) マイナストライバなどでリモコン化粧カバーを取り外します。
- (4) ケースからリモコン取付台を取り外します。
- (5) 埋込用スイッチボックスから通しているリモコン線を付属のY型端子に圧着接続し、リード線止めに止めます。
締付トルク:0.6±0.1N・m(6±1kgf・cm)
- (6) リモコン取付台をMネジ(付属品:M4x40)2本で埋込用スイッチボックスに固定します。
- (7) ケースをリモコン取付台に通し取り付けます。
- (8) 化粧カバーを元通り取り付けます。



浴室リモコン取付工事

付属品

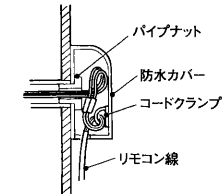
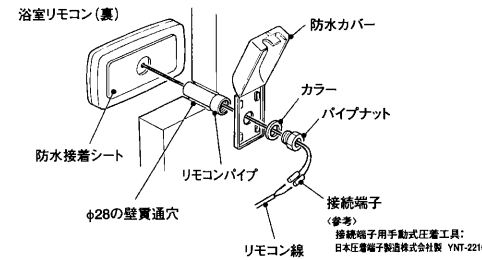
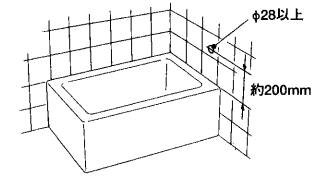


取付場所の選定

- 取付位置は浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見えるところを選んでください。
- 浴室リモコンは防水タイプですが、できるだけ湯や水がかかりにくい場所に取り付けてください。
- リモコン線の長さが20m以内になる場所としてください。

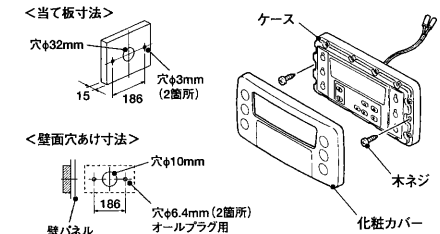
壁貫通取り付けの場合

- (1) 壁に貫通穴(φ28)をあけます。
- (2) リモコンパイプを壁の厚さに合わせて調整し、リモコン接続端子を通してリモコンにねじ込みます。
- (3) 防水接着シートの台紙をはがし、リモコンが水平になるように壁に張り付けます。
- (4) 屋外で防水カバーのふたをあげ、接続端子を防水カバー、カラーおよびパイプナットに通します。
- (5) パイプナットをリモコンパイプに締め付けます。
- (6) リモコン線の各線を接続端子に挿入し、圧着します。
- (7) 接続部が防水カバー内に収まるようコードクランプで固定します。
- (8) 浴室リモコンと壁の間は水が浸入しないようシール材にて防水処理してください。



壁面に直取り付けの場合(壁内配線)

- (1) 壁面にリモコン線用とリモコン固定用の穴をあけます。
- (2) ユニットバスに取り付ける場合は、壁面裏側に当て板を取り付けてください。
- (3) マイナストライバなどで、ケースから化粧カバーを取りはずす。
- (4) 両面テープの台紙をはがし、リモコンが水平になるように壁に張り付けます。
- (5) 木ネジ(付属品:φ4x40)でケースを壁面に固定します。
- (6) リモコン線の各線を接続端子に挿入し、圧着します。
- (7) 化粧カバーを元通り取り付けます。
- (8) 浴室リモコンと壁の間は水が浸入しないようシール材にて防水処理してください。



SRT-HP521

リモコン工事

T010509A